

子どものためのアンケート（2回目）結果のお知らせ

保護者の皆様にはお忙しい中、「子どものためのアンケート」（12月実施）にご協力いただきありがとうございました。いただいたご意見、保護者の皆様や子どもへのアンケートの結果、教職員の自己評価をふまえ、これからも保護者・地域の皆様と共に力を合わせて錦林小学校の教育活動をよりよいものにしていきたいと考えております。今回は7月に実施した学校評価の結果と比較して見えてくる成果と課題を明らかにし、本校の日ごろの取組を見直すとともに、今後の取組に生かしてまいります。遅くなりましたが、結果の概要をお知らせいたします。

【アンケート方法】

それぞれの質問の項目について、子ども・保護者・教職員の立場で回答できるようにしています。質問の文言は多少異なりますが、同じことがらについて、3者（子ども・保護者・教職員）の意識におけるずれの有無がわかるようにするためです。質問に対して実現度を A：よくできている B：大体できている C：あまりできていない D：できていない で尋ねる形式です。今回の結果は「A：よくできている B：大体できている」を合算した数値を実現度として表記しております。

【以下、アンケート結果より】

①授業がわかりやすいか		1回目	2回目
	子ども	95.3%	94.4%
	保護者	94.8%	96.0%
	教職員	100%	96.6%

子ども、保護者、教職員ともに、前回アンケートからほとんど変わらない結果になりました。感染症対策を行いながらの教育活動となり、言葉や表情でコミュニケーションをとっていくこと自体も制限がある状況下でしたが、子どもたちは落ち着いて学習に向かうことができていました。本校では、限られた時間の中でどの子どもにも学習内容の定着が図れるよう、どの学習でも「自分で考えて、決めて、実行する」時間を取り入れた授業づくり、子どもたちの学習の振り返りを生かした学習展開の工夫を重ねています。一人一人が「わかった」「できるようになった」という実感が得られる授業をめざして、今後も指導をすすめていきます。

②わからないことや困ったことなどを先生に相談しやすいか

	1回目	2回目
子ども	80.7%	80.9%
保護者	88.3%	89.0%
教職員	93.5%	100%

子ども、保護者ともに、1回目と比べ微増の結果となっています。1回目のアンケートの分析でもそうでしたが、学年が上がるにつれて「相談しにくい」と感じている割合が多く、4～6年生の結果を分析すると、25%の子どもが「相談しにくい」と回答しています。学年が上がるにつれて、自分のことは自分で解決したいという思いも強くなり、成長の一つの過程として捉えると親や先生に相談する回数が減っていくことは自然な傾向とも考えられます。しかし、困りや不安を抱え、相談したいことがあるのに「相談しにくい」という状況であることは課題であると考えられます。より一層、子どもたちの様子をていねいに見取り、一人一人に声をかけたり、何気ない会話から聞き取ったりできるようにしていけたらと考えています。

子どもたちの中には、学校で先生には相談できず、ご家庭で困りや悩みを保護者のみなさんに相談することもあるかと思います。子どもたちの困りや悩みを聞かれたとき、「これくらいのことで学校に相談してもいいのかな」と思われず、気にかかることがあれば迷わずに担任と共有してください。子どもを中心に、学校とご家庭が連携をとることで、早い段階で不安や悩みが解消されたり、問題を未然に防いだりすることにつながります。

③進んであいさつしているか

	1回目	2回目
子ども	89.0%	90.2%
保護者	79.3%	83.2%
教職員	89.3%	81.2%

1回目アンケートの結果と比較すると、子どもたちは概ね「進んであいさつしている」ことができているようです。保護者の回答結果からも4ポイントの増加が見られます。家庭や地域で進んであいさつできる子どもたちが増えているということがとても嬉しいです。2学期には校内でもクラスごとにあいさつ運動に取り組み、コミュニケーションの基盤として、あいさつの意義を感じ、進んで気持ちのよいあいさつができる子どもの育成をめざしました。この取組を通して、あいさつを交わすことの大切さに気付いたり、友達同士であいさつを交わすことで、その輪が学校の外にも広がっていったりしたようです。いつでも、どこでも、相手がだれでも気持ちよくあいさつできる習慣を身につけられるよう、学校・家庭の両方で子どもたちを見守り、育てていきたいです。



④自分のよいところやがんばっていることが言えるか		1 回目	2 回目
	子ども	76.6%	77.8%
	保護者	87.8%	89.8%
	教職員	96.8%	96.9%

他の質問項目に比べるとポイントは高くはありませんが、子どもたちの自己肯定感の高まりが感じられる結果となりました。子どもたちは「なりたい自分」を目指して様々な学習や活動で努力したり、挑戦したりしています。そのがんばりや挑戦を「自分のよいところ」と認識している子どもの割合が増えてきていると考えられます。学校では自己肯定感を高める取組の一環として、キャリアパスポートを活用しています。活動の前・中・後に感じた自分の思いを書きまとめ、目標に向けて自分がどのようにがんばったかを記録することで、自分のがんばりや挑戦したことが視覚化され、認識できる一助になったのではと思います。また、昨年度のアンケート結果では、1 回目に比べ2 回目は低くなるという結果でしたが、今年度は1 回目を2 回目为上回る結果となっています。この結果から、子どもたちが努力し続けているということ、まわりの大人がそのがんばりや挑戦をしっかりと見取り、その姿を認め励まし、子どもたちにフィードバックできていることがわかります。今後とも子どもたちが自信をもって生き生きと活動できるよう、ご支援をよろしくお願いいたします。

⑤時間を守って生活しているか		1 回目	2 回目
	子ども	85.2%	85.7%
	保護者	77.8%	76.3%
	教職員	83.9%	83.9%

1 回目の結果とポイントとしては、ほとんど変化のない結果でした。子どもたちの回答からは、8 割以上の子どもたちが時間を意識して行動できていることがわかります。校内の様子を見ても、ほとんどの子どもが登校時間を守り、チャイムが鳴る前に着席していること、休み時間や掃除時間も、チャイムの合図を待たずに運動場から帰ってきたり、掃除の場所から帰ってきたりして、次の活動にスムーズにとりかかることができています。時間を守って生活をしていくことは、見通しをもって計画的に行動していくことにつながっていると考えます。学年が上がるにつれて、一人一人に身につけていることが求められる大切な態度の一つです。子どもの発達段階に合わせて、生活習慣や時間の使い方について、学校でも話し合ったり、取り上げたりして、さらに意識を高めていきたいです。



【保護者アンケート（ご意見・ご感想の記入欄）より】



●参観日や懇談会が少なく、子どもたちの様子がわかりにくいです

たくさんのご意見を頂きました。授業参観等、感染拡大防止の取組にご理解・ご協力いただき、ありがとうございます。感染症対策を徹底することはもちろんですが、もう一度、教育活動の中で、したいことやできることを精査しながら、今後の活動の充実を図りたいと思います。このような状況の中ではありますが、人とのつながりや関わりを大切にしながら、子どもたち一人一人の「主体性」と「社会性」の育成を目指し、よりよい人生と未来を共に創る基盤となる「自ら学ぶ力」と「自ら律する力」の向上が図れるよう、様々な教育活動を工夫したいと考えています。随時、学校ホームページの更新をしていますが、今後も、学校行事や児童の学習等の様子が分かるよう、情報発信の仕方を工夫していきますので、ご協力をお願いします

●ICT やプログラミング教育は何の目的のためなのか

「予測できない変化を受け身で捉えるのではなく、前向きに受け止め、主体的に向き合い・関わり合い、自らの可能性を発揮し、よりよい社会と幸福な人生の創り手となるための力を子どもたちに育む」ことが大きな目的で進められています。子どもたちがこれからの社会を生きていくためには、コンピュータをはじめ多くの情報及び情報手段をより適切に、効果的に活用していくことが求められます。本校でも、子どもたちの発達段階に合わせて、情報機器の基本的な操作や、情報を収集・整理・発信するなど、情報手段を適切に活用する学習をおこなっています。また、高学年では、算数科や理科の学習の中で、「コンピュータはプログラミングで動いている」ことを学んだり、コンピュータの仕組みの一端を知る学習活動を体験したりしています。

【ご感想】

- ・なかなか学校の様子がわかりにくい最近ですが、充実した時間を過ごしているのだろうなと思っています。たてわり学習が再開されたのもよい刺激になっているようです。難しい時期ですが子どもたちの豊かな学びのために様々な取組を行っていただき感謝しています。
- ・「なりたい自分」や目標・目的などがもてたら行動が少しは変わってくるかなあと思います。
- ・小さいころからあまり本を読んであげていなかったせいか、本に対してあまり興味関心がないようです。どうすればもっと本を読んでもくれるかな？と考えているところです・・・。ただ、音読はとても上手です！！